

沖縄戦で亡くなった沖縄最後の官選知事島田叡氏＝写真＝の功績を後世に残そうと、島田元知事の母校県立兵庫高校（神戸市長田区）の卒業生が、沖縄県糸満市の「摩文仁の丘」に顕彰碑を建立し、28日に除幕式が開かれる。最後まで



きょう「慰霊の日」

で県民と辛苦をともにした島田元知事は、今も「沖縄の島守」と語り継がれる。23日は沖縄戦の犠牲者を悼む「慰霊の日」。(河尻 橋)

島守の志碑に刻む

戦中の沖縄知事・島田叡氏

母校・兵庫高OB 「平和の一助に」 摩文仁の丘に建立



28日に除幕式

島田元知事は神戸市出 直前の一九四五年一月にた。米軍上陸後も壕の中に身で、旧制神戸二中(現 赴任。「県民の生命、県で執務を続け、六月中旬 兵庫高)、東京帝大(現 土の一本一草にも責任を 東大)を卒業。太平洋戦 持つ」と、県民の食糧確保 争末期、沖縄戦が始まる 保や疎開などに奔走し

頭影碑を考えたのは兵庫高卒業生で、沖縄県護国神社(那覇市)宮司の伊藤剛夫さん(左)。伊藤

島田元知事(左)と頭影碑の複製を建てる予定地と立つ伊藤剛夫さん(右)市長田区寺池町1、県立兵庫高校

伊藤さんは同級生の富田和雄さん(神戸市東灘区)と相談。書家の井茂圭河さんら他の同級生らにも協力を呼びかけて実現した。建立される石碑は縦百二十センチ、横六十センチ、厚さ五センチと記している。

さんは二〇〇二年、明治神宮に在職中、観光で沖縄を訪れ、多くの県民が洞窟で集団自決した話などを聞き感銘を受けた。〇三年七月、退職と同時に「内地の人間は沖縄の惨禍を忘れて安穏と平和に生きている」と、「巡礼の旅」として沖縄県に移住。島田元知事のご遺徳を語り、平和祈念公園などがある摩文仁の丘に頭影碑の建立を思い立ちました。

六十三年前の沖縄戦の犠牲者二十万人以上を悼む「慰霊の日」を前に、沖縄県糸満市摩文仁の平和祈念堂で二十日夜、全戦没者追悼式前夜祭が行われた。鐘の音が響く中、県内外からの出席者約四百人が黙とうし献花。戦没者の魂を慰めるため、三線や琴の琉球古典音楽と琉球舞踊が奉納された。主催した沖縄協

前夜祭 響く鐘の音

会の清成忠男会長(右)は「戦争への反省と世界平和確立の決意を新たにし、み霊の冥福をお祈り申し上げます」と「鎮魂のよは」を述べた。祈念堂がある平和祈念公園内では二十三日正午前から戦没者追悼式が営まれ、福田康夫首相や仲井真弘多知事が出席。同県糸満村の小學生が詩を朗読する。

沖繩戦 1945年3月下旬から約3カ月間、沖繩本島を中心に展開された。米軍の艦砲射撃は「鉄の暴風」といわれるほど激烈で、多くの住民も集団自決に追い込まれるなど悲惨な戦いだった。犠牲者は日米合わせて約20万人とされ、住民が9万4000人に上る。沖繩県は、組織的戦闘が終結した6月23日を「慰霊の日」と定め、追悼式典を開いている。